

## 2025年12月21日(日) 第二礼拝「メリークリスマス」イザヤ7章14節

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を喜びをもってお祝いし、礼拝する日です。

第一番目、イエス様の誕生です。「…主みづから、あなたがたに一つのしるしを与える。見よ。処女がみごもっている。…男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」(イザヤ7:14) これはイエス様の誕生を預言する御言葉です。処女とはヘブル語でアルマ、結婚していない女性を意味します。マタイの福音書には、処女マリアが聖霊によってみごもったと書かれています。これは神様の与えられた一つのしるしであり、サタンに支配されている人間を救うために、神様が人間の歴史に超自然的に介入してくださった出来事です。「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。」(イザヤ9:6) 私たちの想像を超える超自然的なことが、万軍の主の熱心によって成し遂げられました。神様が私たちのうちに来られ、ともにいてくださいます(インマヌエル)。

第二番目、人間の従順によって、預言が成就しました。御使いガブリエルがマリヤを訪れ、「おめでとう、恵まれた方。」と告げた時、マリヤはまだ男の人を知らない未婚の女性だったのでひどく戸惑いました。しかし、御使いが「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」と告げると、マリヤは「どうぞ、あなたのことをばどおりこの身になりますように。」と応答しました。一方で、マリヤの婚約者のヨセフは、彼女が身重になっていることを知り、彼女をさらし者にすることなく、内密に去らせようと決めました。ヨセフの正しさは、姦淫の女に石を投げて殺すような律法主義的なものではなく、そのあわれみ深さがありました。それゆえ、神様はヨセフを選ばれたのです。ヨセフは、御使いに「恐れないあなたの妻マリヤを迎えてなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」と語られた通りに彼女を迎え入れました。更に、神様はマリアとヨセフに、生まれる男の子の名をイエスとつけるように語られました。イエスとはイエシュア(救い)、ご自分の民を罪から救うという意味です。罪のために永遠に地獄に行く運命だった私たちを救うために、イエス様は来られました。このように、マリヤとヨセフの従順によって、神様の預言は成就しました。

第三番目、救いの希望です。「聖書に『最初の人アダムは生きた者となった』と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。」(1コリント15:45) 人間は罪を犯したために、靈が死んでしまいました。その靈を生かすために、神様が人間となってこの地に来られました。イエス・キリストを信じる者は、過去、現在、未来のすべての罪が赦され、永遠のいのちが与えられます。そして、聖霊が私たちのうちにに入ってくださいり、私たちの靈に「アバ、父」と呼ぶように教えてくださいます。ですから、私たちは神の家族、神の子どもなのです。そのことを、御霊ご自身が私たちの靈とともに証してくださいます。私たちが神の家族、神の子どもになるという祝福、喜びが「メリークリスマス」です。アーメン！